瀬戸内タウンミーティング（豊原地区）

平成 23 年 11 月 8 日（火）19 時～21 時
豊原コミュニティセンター　大会議室

参加者：男性 11 人、女性 1 人、計 12 人

行政報告に対する意見と市長の回答

・台風で避難勧告が発令された際に避難した人から、避難所となった中央公民館では、職員が不在で、毛布などもなく、自宅に帰る際にも自分で判断して帰ったと聞いた。また、その人を含め、3 人避難した方がおられたそうだが、市は人数の把握をきちんとしているのか。また、長船では、中央公民館は長船町公民館と思い、そちらに避難した人もいると聞いた。邑久町尾張の中央公民館、などと周知をした方がよいのでは。

（市長）避難者の最後の方が帰られるまで、避難所には職員がいる。また、毛布はお渡しできるよう準備しており、また、食事などもお出しする。ただ、避難者の方が不安で来られているのに、声掛けが十分にできていなかったということがあるかもしれないので、改善する。

・錦海塩田跡地にソーラーパネルを設置するという話が出ているが、ソーラーパネルだけでは雇用が少ない。作った電力をそこで使って、雇用を生み出せるような方法はないか。若者に定住してもらう瀬戸内市になるためには雇用の場を確保する必要がある。

（市長）さまざまな点を考慮し、活用方法を考える。現在、スマートコミュニティ（環境配慮型社会）研究会の立ち上げを準備している。錦海塩田跡地に、自然エネルギー関連の施設ができるにしろ、できないにしろ、環境に配慮した瀬戸内市になるよう進める。

・南北道をブルーラインに接続するという話をちらほら聞くが、接続の方法などはいろいろなうわさを聞く。何が狙いで、どういうふうにしたいのか、はっきりした話を聞きたい。また、企業誘致の話も出ているが、豆田が残っているのではないか。

（市長）11 月 7 日に、豆田地区でも説明会を行ったのだが、豆田地区で残っているのは 6ha 程度で、家などもあることから、道をつけて売るとしても、区画は小振りになる。また、豆田が全部売れた後では、間があいてしまう。東日本大震災の影響もあって、企業は、まさに工場の分散なども考えているよ

うな状況だが、造成をしていないところに企業を誘致することはできないため、宮下地区の造成を考えている。引き継いだ以上は、南北道を生きた道にするため、南に延長し、ブルーラインへの接続が良くなれば、その沿線は企業にとって売り込む材料となると考えている。接続は、今年度、設計の予算をとっている。インターをつける・信号をつける・瀬戸内インターにつなぐなどの方法が考えられるが、一長一短であり、どの方法が良いかを考えていく。

・**農振を撤廃すれば、みんなにメリットがあるので、外せばよいのではないか。**

（市長）市が簡単に外せるものではなく、市の事業を行う場合でも、県との協議が必要であり、現実的には難しい。県も、優良農地を今後増やしていく方針である。また、宮下地区は基盤整備をしていないところで、比較的外れやすいのではないかと考えている。

・**豊原地区は、店舗などがたくさんできてきており、邑久駅南の信号から南の道路がいつも渋滞している。図書館をどこに建てるかという話にもかかわってくるが、子どもさんの安全確保を進めるべきだ。**

（市長）南北道の南を延長すれば、多少、渋滞が緩和できるのではないかと考えている。子どもさんの安全確保も考えていく。

・**豊原コミュニティセンターは、網戸がないため窓が開けられず、5〜10 月はエアコンを使用している。省エネの観点からもぜひ設置をお願いしたい。**

（市長）要望をあげてほしい。

・**今城や裳掛のコミュニティ協議会では、防災訓練を行ったというのをテレビで見た。どこに申し込めばいいか。**

（市長）総務課地域安全推進室まで相談してほしい。

・**中央公民館は、実際に避難者がたくさんいた場合にみんな入れるのか。**

（市長）たくさんの避難者が殺到した場合には、全員は入れない。また、夜に豊原から中央公民館まで行くのが危険な場合もある。どこに避難するのかを地域と一緒に考えたい。

・豊原コミュニティセンターは土地が低い。橋が落ちたら避難できない。
・食料の備蓄もない。
・豊原のキャンプ場はどうか。→そこまで行くのは難しいのではないか。
・邑久高校はどうか。
・ふれあいの館はどうか。
（市長）邑久高校については、学校は授業を行うところであるため、基本的には公民館などで対応すべきではあるものの、大災害の場合は避難所として開設できるよう、お願いした方が良いと考えている。
・下水道の汚水処理場を作る際に、最初は避難場所として使えるという話だったため、そのつもりで地元でも防災の話をしていたが、結局使えないことになった。
・東谷は、地形的に避難しなければならない場所だが、東谷公会堂も、コミュニティセンターも危ない、さらに大橋地区が冠水すれば他の地区に逃げることができないという話で、避難場所をどうしたらいいかという結論が出ない。
・各地区で、要望もそれぞれだと思う。やはり、邑久高校が良いので、県教委に許可を取った方が良いのでは。
・人が殺到すれば、公民館では入りきらない。時間があれば、スポーツ公園なども考えられるが、敷地が広くイメージしやすいのが高校。
・ＪＡは３階建てで、３階に会議室もある。
（市長）避難所については、市の担当とも相談する機会を設けてほしい。

・図書館を普段利用しているが、利用者はほとんどおらず、長時間滞在できる場所でもない。結局、県立図書館や他市の図書館を利用している。現在の図書館がお粗末だから利用しないのか、そもそも関心を持っていないのかが気になる。ニーズがなければ、図書館を作っても利用されない。
（市長）ニーズには顕在化しているニーズと潜在的なニーズの２種類があると思う。現在市の図書館や県、他市の図書館を利用している人のニーズは、顕在化している。しかし、潜在化ニーズの掘り起こしと読書環境の提供も大切だと考えている。現在、市内の幼稚園・保育園をまわる移動図書館の取り組みを始めた。これは、子どもに読書の習慣を身につけてもらい、将来図書館を利用する顧客となってもらうためである。また、年配の方々などにも来ていただく工夫が必要である。また、企業誘致をしても、働く人に住んでもらえなければ、税収があまり増えない。定住してもらうことが大切である。他市町村から来られた人に一番に言われるのが図書館のことであり、図書館を整備することは、まちの魅力づくりにつながると考えている。

・図書館は、規模が小さくても良いので農振を外して、浄化センターのあたりに作ってはどうか。

（市長）農振が外れるのに規模は関係なく、現段階では、農振解除が難しい。

・現在の市民病院は、診察を受けるには仕事を休んで行く必要がある。民間は、もう少し遅い時間までやっている。新病院では、もう少し遅い持間まで診察をしてはどうか。

（市長）診察時間を延ばすほか、土曜日に診察を行うことも考えられる。どうサービスを高めていくのかを考えていきたい。現在も、機能評価をやって、サービス向上を目指している。

・大用水は、以前の改修工事で 30cm **ほど深くなった。お金をかけて圃場整備をしたが、田植え水が入らず困っている。大用水は、岡山市まで水を運んでいるが、岡山市側の権利が強く、うまく話がつかないと聞いている。水がきちんと使えるように、話をつけてほしい。**

（市長）話をする。

・図書館は、現在とは別の場所に建てようと考えているのか。邑久地区のコミュニティセンターを取り壊せば、広い敷地が確保できるのではないか。公民館と図書館を一体的に考えて、小さい子どもからお年寄りまで集まれる場所にすれば、公民館の利用者も増やせるのではないか。

（市長）コミュニティセンターは、コミュニティ協議会が使用しているため、代替の場所が必要である。また、面積的にも足りない。駐車場もない。公民館と図書館の役割は、似ているが少し違う部分もあり、うまく相乗効果が出るように考えていきたい。

・市役所の駐車場や公民館の駐車場を融通し合えばよい。
・職員は、市内に住んで自転車で通えば職員駐車場は必要ないのではないか。

（市長）職員駐車場は、別に確保しなければならない。

地域資源と活性化について、意見交換

・武田信玄の言葉に、「人は城」というのがある。これは、人こそ資源であるという考え方で、瀬戸内市も、そこから出発すれば、いろいろなアイデアが出てくるのではないか。たとえば、「してもらうのが福祉」という考えが強い。しかし、保険であれば元気なときに掛金を掛けている。退職後などのまだま

だ元気な人が労力を提供し、市もどんどん人を使う仕組みを作ることが大切。行政の行う事業に、65～70 歳くらいの人を動員するくらいのつもりでやれば、自分から積極的に参加する人も増え、いきがいづくりにもなるのではないか。
・**成人式の案内のように、退職後の年代の方に案内を送って登録を促すなどして意識付けをはかってはどうか。**
（市長）高齢者の人材データベースを作れば、うまく機能するかもしれない。

・**エーゲ海フェスティバルや、バルーンフェスティバルは財政が厳しくなって休止されているが、瀬戸内市に来られた人に泊まってもらうことが大切。ツーリングなどはどうか。また、以前牛窓で開催されていたペタンクの大会は、2 日間にわたって行われており、関西から来て宿泊される方もかなりおられた。ただ、だんだんと宿泊者数が減ったと聞いている。**
（市長）宿泊してもらえば、地元にお金も落ちる。牛窓は、1000 人以上泊まれる。11 月 12・13 日の 2 日間で牛窓国際交流フェスタが開催されるが、2 日間にわけて開催することで今後宿泊者数が増えることを期待している。財政的に厳しいという話が出たが、市民活動応援補助金を活用していただくことは可能。喜之助フェスティバルなど、かつては市が行っていたイベントでも、市民団体が主体で開催されているものはたくさんある。どちらかというと、やっていただく団体がないものは復活が難しい。市の職員がやった方がいい面もあるが、市民の皆さんが主体となってイベントを開催し、達成感を味わっていただきたいと考えている。今でも、地域のおまつりなどをされているので、実行力は十分にあると思う。

・**市の職員の皆さんにも、地域のイベントなどにボランティアで参加するよう啓蒙を行ってほしい。なかなか後継者となってくれる若手の育成が進まず、何年も同じメンバーでやっている。**
・**ボランティア休暇なども創設してはどうか。**
（市長）職員にも働きかけていきたい。